

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申） 別添資料

本資料は、中央教育審議会における議論をまとめたものであり、今後、文部科学省において法制的な観点からの整理を行い、告示する。

別添 1	幼児教育	1
別添 2	国語	2
別添 3	社会、地理歴史、公民	7
別添 4	算数、数学	2 8
別添 5	理科	3 3
別添 6	高等学校の数学・理科にわたる探究的科目	3 8
別添 7	生活	4 1
別添 8	音楽、芸術（音楽）	4 5
別添 9	図画工作、美術、芸術（美術、工芸）	5 0
別添 1 0	芸術（書道）	5 7
別添 1 1	家庭、技術・家庭	6 0
別添 1 2	体育、保健体育	6 6
別添 1 3	外国語	7 2
別添 1 4	情報	8 4
別添 1 5	主として専門学科において開設される各教科・科目	8 8
別添 1 6	道徳教育	9 3
別添 1 7	特別活動	9 8
別添 1 8	総合的な学習の時間	1 0 9

【高等学校】

地理歴史科

◎社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ①日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ②地理や歴史に関わる諸事象について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養うようにする。
- ③地理や歴史に関わる事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚等を深めるようにする。

公民科

◎社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ①選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済等に関わる諸課題に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ②現代の諸課題について、事実を基に概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて構想したりする力、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うようにする。
- ③人間と社会の在り方に関わる課題について、よりよい社会の実現のために主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国国民が協力し合うことの大切さについての自覚等を深めるようにする。

【中学校】社会科

◎社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- ①我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
 - ②社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うようにする。
 - ③社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚等を深めるようにする。
- 主体的に社会の形成に参画しようとして、資料から読み取った情報を基にして社会的事象について考察し表現したりするなどの課題解決的な学習の充実を図る。
- ◇地理的分野では、地理的技能の育成を一層重視するとともに、持続可能な社会づくりの観点から様々な課題を考察させ、歴史的分野では、グローバル化に対応する観点から世界の歴史の扱いを充実させ、公民的分野については、社会参画への手掛かりを得させるために身に付けた概念を現実の社会的事象と関連付けて理解させる指導の充実を図る。

【小学校】社会科(第3～6学年)

◎社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- ①地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して、社会生活について理解するとともに、調査や諸資料から情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
 - ②社会的事象の特色や相互の関連、意味について多角的に考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、思考・判断したことを適切に表現する力を養うようにする。
 - ③社会的事象について、よりよい社会を考え課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多角的な考察や理解を通して涵養される地域社会に対する誇りと愛情、我が国の国土や歴史に対する愛情、地域社会の一員としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚等を養うようにする。
- 社会的事象から学習問題を見出し、問題解決の見通しを持って他者と協働的に追究し、追究結果を振り返るなど、問題解決的な学習の充実を図る。
- ◇世界の国々との関わりや我が国の政治の働きへの関心を高める学習、社会に見られる課題を把握して、社会の発展を考える学習の充実を図る。災害における地方公共団体の働き、地域の人々の工夫や努力、地理的・歴史的観点を踏まえた災害に関する理解、防災情報に基づく適切な行動の在り方等に関する指導の充実を図る。

【小学校】生活科(第1,2学年)

(※現行の学習指導要領を基に作成)

- 自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などとの関わりに関心を持ち、地域のよさに気付き、愛着を持つことができるようにするとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようにする。
- 身近な人々、社会及び自然との関わりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信を持って生活することができるようにする。
- 身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることができるようにする。

幼児教育

(※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるものを記述)

- してよいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりを守る必要性が分かり、決まりを作ったり守ったりするようになる。
- 遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報を伝え合ったり、活用したり、情報に基づき判断しようとしていたりして、情報を取捨選択などして役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用したりなどして、社会とのつながりの意識等が芽生えるようになる。
- 身近な事象に積極的に関わり、物の性質や仕組み等を感じ取ったり気付いたりする中で、思い巡らし予想したり、工夫したりなど多様な関わりを楽しむようになるとともに、友達などの様々な考えに触れる中で、自ら判断しようとしていたり考え直したりなどして、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにしようとするようになる。

「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージの例

※「社会的な見方・考え方」は、小・中・高等学校の各「見方・考え方」を総称する呼称である。
 ※「社会的な見方・考え方」は、社会的現象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする際の「視点や方法」であり、小、中、高等学校と校種が上がるにつれて視点の質やそれを生かした問いの質が高まるものである。
 ※「社会的な見方・考え方」は、便宜上「思考力、判断力」の欄に示しているが、深い学びを実現するための思考力や判断力の育成や生きて働く知識の習得に不可欠であること、主体的に学習に取り組む態度や学習を通して涵養される自覚や愛情などにも作用することなどを踏まえると、資質・能力全体の中核であることに留意する必要がある。また、教科、科目、分野については、便宜上並列して表している。

	考えられる視点例	社会、地理歴史、公民における思考力、判断力	視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例	考察、構想した結果、獲得する知識の例
小学校社会	<ul style="list-style-type: none"> ○位置や空間的な広がり 地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件、土地利用 など ○時期や時間の経過の視点 時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性 など ○事象や人々の相互関係の視点 工夫、努力、願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力、連携、対策・事業、役割、影響、多様性と共生(共に生きる) など 	<p>◎社会的現象の見方・考え方</p> <p>社会的現象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。</p> <p>考察 社会的現象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察する力</p> <p>構想 社会に見られる課題について、社会への関わり方を選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように広がっているのだろう ・なぜこの場所に集まっているのだろう ・地域ごとの気候はどのような自然条件によって異なるのだろう ・いつどんな理由で始まったのだろう ・どのように変わってきたのだろう ・なぜ変わらずに続いているのだろう ・どのような工夫や努力があるのだろう ・どのようなつながりがあるのだろう ・なぜ○○と○○の協力が必要なのだろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの組立工場を中心に部品工場が集まり、工業が盛んな地域を形成している ・駅の周囲は交通の結節点なので人が多いため商業施設が集まっている ・国土の地理的位置や地形、台風などの自然条件によって気候は異なる ・祭りは地域の豊作や人々のまとまりへの願いから始まった ・農作業は機械化により生産効率を向上させてきた ・伝統芸能は技や道具が継承されるときにも、多くの人々に受け入れられて今に至っている ・地域の安全は、関係機関の未然防止と緊急対応によって守られている ・食料生産は私たちの食生活を支える役割を果たしている ・政治には国民生活の安定と向上を図る働きがある
	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように続けていくことがよいのだろう ・共に生きていく上で何が大切なのだろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統と文化は受け継ぐだけでなく時代に合わせ発展させていく必要がある ・世界の人々と共に生きるには、文化や考え方の違いを認め合い、課題を解決しながら理解し合っていくことが大切である 		
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○位置や分布に関わる視点 絶対的、相対的、規則性・傾向性、地域差 など ○場所に関わる視点 自然的、社会的 など ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境依存性、伝統的、改変、保全 など ○空間的相互依存作用に関わる視点 関係性、相互性 など ○地域に関わる視点 一般的共通性、地方的特殊性 など 	<p>◎社会的現象の地理的な見方・考え方</p> <p>社会的現象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。</p> <p>考察 地域の特色や地域相互の関連を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それは、どこに位置するだろう ・それは、どのように分布しているだろう ・そこは、どのような場所だろう ・そこでの生活は、まわりの自然環境からどのような影響を受けているだろう ・そこでの生活は、まわりの自然環境にどのような影響を与えているだろう ・そこは、それ以外の場所とどのような関係を持っているだろう ・その地域は、どのような特徴があるだろう ・それは、(どこにある、どのように広げる、どのような場所とする、どのような自然の恩恵を求め、どのように自然に働き掛ける、他の場所とどのような関係を持つ、どのような地域となる)べきなのだろう 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること (具体例：明石市は大阪市の西にあり、その市立天文科学館は日本標準時子午線上の北緯34度38分、東経135度0分にある) ・特定の現象は、地球の表面において特定の範囲に広がること (具体例：アマゾン川流域の一年中雨が多降る地域には、常緑の密林地帯が広がっている) ・地球上の各地は、固有の性格があること (具体例：広島市の沿岸部は、低平な三角州となっている) ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること (具体例：平野の乏しい日本では、その傾斜地を段々畑や棚田にするなどして利用してきた) ・場所は相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと (具体例：多くの人口を抱えた大消費地東京の周辺では、新鮮な農産物を生産し、都市の住民に届ける近郊農業がさかんである) ・空間的な広がりには、まとまりのある固有の特徴を持つこと (具体例：中国地方の山間部では、人口減少や高齢化の進む過疎化に悩む地域が広がっている)
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域には、地域的特色を踏まえた、よりよい姿が求められること (具体例：地震や豪雨、台風など自然災害を受けること多い日本では、被害を最小限に食い止めるため、各地の自然環境に応じた、災害に強いまちづくりを進めることが大切である) 			
中学校社会	<ul style="list-style-type: none"> ○時系列に関わる視点 時期、年代 など ○諸現象の推移に関わる視点 展開、変化、継続 など ○諸現象の比較に関わる視点 類似、差異、特色 など ○事象相互のつながりに関わる視点 背景、原因、結果、影響 など 	<p>◎社会的現象の歴史的な見方・考え方</p> <p>社会的現象を、時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。</p> <p>考察 時代の転換の様子や各時代の特色を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつ(どこで、誰によって)おこったか ・前の時代とどのように変わったか ・どのような時代だったか ・なぜおこった(何のために行われた)か ・どのような影響を及ぼしたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・9世紀の初め、唐に渡った最澄と空海は、帰国後に仏教の新しい宗派を伝えた ・15世紀後期の動乱を経て室町幕府の統一支配は弱まり、各地の大名による領国の支配や、民衆による自治的な結合が進んでいた ・近世は、江戸幕府の安定した全国支配体制が形成され、産業・通商や町人文化が隆盛をみた時代であった ・自由民権運動は、士族や商工業者、有力農民など幅広い人々が参加し、一部の勢力が多数を占めた政府に対し、国民の参政権確立を求めた運動であった ・アジアの富への関心やイスラム諸国との接触(対立と文化交流)を背景としたヨーロッパ人の海外進出は、勢力拡大を図る戦国大名との関係のもと、戦国時代の推移に影響を与えた
	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜそのような判断をしたと考えられるか ・歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために、どのようなことが必要とされるのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史上積み重ねられてきた課題解決の経緯と同様に、現代社会に生きる私たちが、課題を見出し、解決に向き合うことが必要である (具体例：公害問題への対策は、関心の広まりと意識の変化の積み重ねが政治や経済の仕組みに影響を与えたため進展した。現代に生きる私たちがそれらを引き継ぎ、環境問題について、よりよい未来のために課題を見出して、解決に向けて考える事が求められている) 		
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> ○現代社会を捉える視点 対立と合意、効率と公正、個人の尊重、自由、平等、選択、配分、法的安定性、多様性 など ○社会に見られる課題の解決を構想する視点 対立と合意、効率と公正、民主主義、自由・権利と責任・義務、財源の確保と配分、利便性と安全性、国際協調、持続可能性 など 	<p>◎現代社会の見方・考え方</p> <p>社会的現象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。</p> <p>考察 社会的現象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 複数の立場や意見を踏まえて構想する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ市場経済という仕組みがあるのか、どのような機能があるのか ・民主的な社会生活を営むために、なぜ法に基づく政治が大切なのか ・よりよい決定の仕方とはどのようなものか ・社会保障とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか ・世界平和と人類の福祉の増大のためにどのようなことができるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・市場経済において個人や人々は価格を考慮しつつ、何をどれだけ生産・消費するかを選択すること、また、価格には、何をどれだけ生産・消費するかに関わる、人的・物的資源を効率よく配分する働きがあることなどが、市場経済の基本的な考え方である ・民主的な社会における法は、国民生活の安定と福祉の向上を目指し、国民の意思のあらわれとして国民の代表によって構成される議会によって制定されるものであり、国や地方公共団体は、国民の自由と権利を侵さないようにそうした法の拘束を受けながら政治を行っている ・合意の妥当性を判断する際に、無駄を省く「効率」と決定の手続きや内容についての「公正」が必要である ・財政に関して、少子高齢社会など現代社会の特色を踏まえ、財源の確保と望ましい配分について対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察・判断することが大切である ・地球環境、資源・エネルギー、貧困などの課題に対しては、経済的、技術的な協力などが大切である

「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージの例

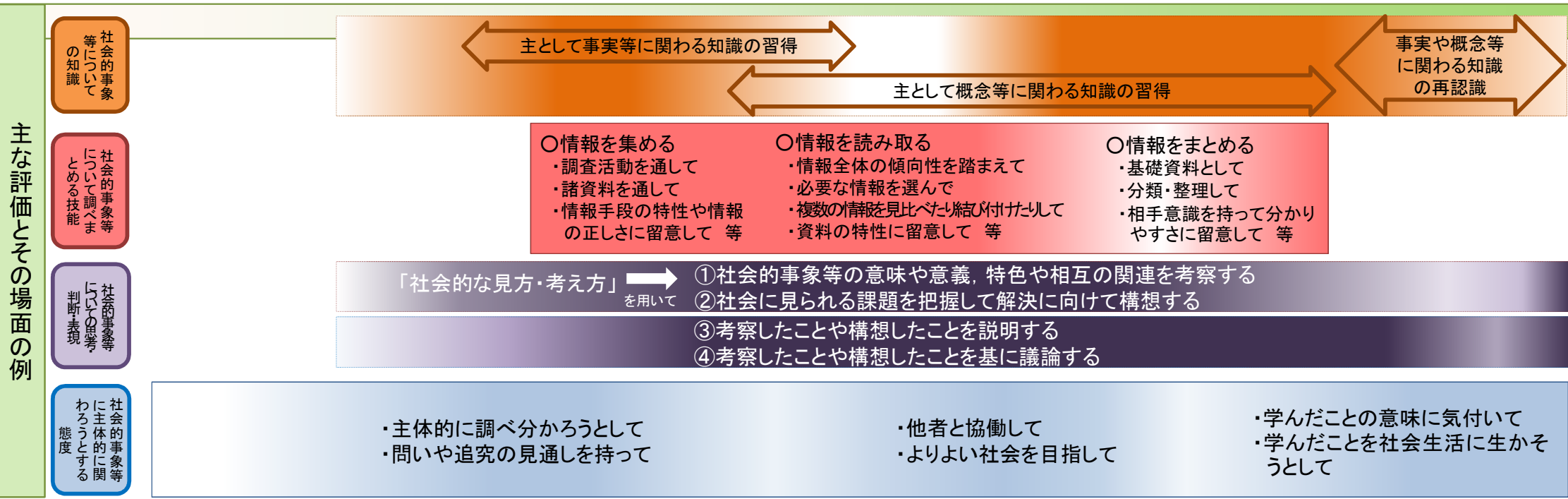
	考えられる視点例	社会、地理歴史、公民における思考力、判断力	視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例	考察、構想した結果、獲得する知識の例
地理総合	<ul style="list-style-type: none"> ○位置や分布に関わる視点 時間距離、時差 等質(均質,同質)性、類似 など ○場所に関わる視点 共通性、多様性 など ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 限界性、防災・減災 など ○空間的相互依存作用に関わる視点 移動性、圏構造(都市圏…), グローバル化 など ○地域に関わる視点 規模、格差、変容、持続可能性 など 	<p>◎社会的事象の地理的な見方・考え方</p> <p>社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。</p> <p>考察 地理に関わる諸事象を地域等の枠組みの中で多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 持続可能な社会の構築のためにそこで生起する課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて構想する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それは、なぜそこに位置するだろう ・それは、なぜそのように分布しているだろう ・そこは、なぜそのような場所になったのだろう ・そこでの生活は、まわりの自然環境からなぜそのような影響を受けているのだろう ・そこでの生活は、まわりの自然環境になぜそのような影響を与えているのだろう ・そこは、それ以外の場所となぜそのような関係を持っているのだろう ・その地域はなぜそのような特徴があるのだろう <p>・なぜ、それは(そこにある、そのように広がる、そのような場所となる、そのような自然の恩恵を受ける、そのように自然に働き掛ける、他の場所とどのような関係を持つ、そのような地域となる)べきなのだろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の地点は、理由があり、そこに所在していること (具体例: 択捉島が日本の国土の最北端であるのは、それが他の北方領土の島々とともに、日本の固有の領土だからである) ・地球上の各地は、理由があり、多様な特徴を持つこと (具体例: 東南アジアの高温多湿な地域では通気性を高めるため、シベリアの凍土地帯では住宅内の熱を逃がすため、いずれも高床式住居が建設されている) ・人々の生活は、理由があり、自然の影響を受けるとともに、それを変化させること (具体例: サハラ砂漠の南に広がるサヘル地域では、過度な放牧や農耕、薪の採取などにより砂漠化が進んだ) ・場所は、理由があり、相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと (具体例: 飢饉に苦しむ発展途上国への食料援助には、人道的な側面とともに政治的混乱や周辺諸国への難民発生を防ぐといった効果も考えられる) ・空間的な広がりには、理由があり、固有の性格を持ち、変容すること (具体例: 発展途上国には、政治や経済、文化、情報などの機能が首都に一種集中し、地域格差が拡大している国がある) <p>・地域には、それが持つ地理的な理由に基づいた、よりよい姿が求められること (具体例: シンガポールでは、地理的に交通の要衝にあることやその多民族性を生かして、国際的な物流の拠点や金融ステーションとしての国づくりを目指している)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○位置や分布に関わる視点 経済距離、中心性 単一指標、複数指標、総合(指標) など ○場所に関わる視点 立地、景観、民族性 など ○人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境可能論、環境決定論 など ○空間的相互依存作用に関わる視点 中枢管理機能、階層性 など ○地域に関わる視点 構造、分化 など 	<p>◎社会的事象の地理的な見方・考え方</p> <p>社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること。</p> <p>考察 地理に関わる諸事象を系統地理的あるいは地誌的な方法により多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 持続可能な社会の構築のためにそこで生起する課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて構想する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それが、そこに位置する意味(意義、役割、影響)は何だろう ・それが、そのように分布する意味は何だろう ・そこが、そのような場所である意味は何だろう ・そこでの生活が、まわりの自然環境からそのような影響を受けているのはどういう意味があるのだろう ・そこでの生活が、まわりの自然環境にそのような影響を与えているのはどういう意味があるのだろう ・そこが、それ以外の場所とどのような関係を持っている意味は何だろう ・その地域がそのような特徴があるのはどういう意味があるのだろう <p>・それが、(そこにある、そのように広がる、そのような場所となる、そのような自然の恩恵を受ける、そのように自然に働き掛ける、他の場所とどのような関係を持つ、そのような地域となる)ことにどういう意味(影響、役割、意義)を持たせるべきだろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地球上の地点が、そこに所在するのは意味があること (具体例: 沖ノ島や南鳥島等の離島は、領土としてはもちろん、豊かな海洋資源を抱える排他的経済水域の起点としても重要であり、その存在意義が注目されている) ・地球上の各地が多様な特徴を持つこと (具体例: 大都市の都心には、行政機関や大企業の本社等が集まることで、政治や経済の中核管理機能を担っている) ・人々の生活が自然の影響を受けるとともに、それを変化させるのは意味があること (具体例: ヨーロッパの過酷な自然環境下で生まれた休耕地や放牧地を要する農業形態は、広い用地を必要としたことから、農地転用のための森林伐採を促し、平地林の減少を加速させたこととなった) ・場所が相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うのは意味があること (具体例: 都市周辺部の無秩序な開発は、そこでの生活環境の悪化を引き起こすとともに、都市中心部と他地域を結び付ける交通アクセス等にも悪影響を及ぼし、都市全体としての機能を低下させる) ・空間的な広がりがあり、固有の性格を持ち、変容すること (具体例: スイスで複数の言語が公用語となっているのは、複雑な民族間の軋轢を軽減し、多文化主義を推進しようとするねらいがある) <p>・地域には、それがもたらす意味(影響、役割、意義)を踏まえた、よりよい姿が求められること (具体例: 戦争により荒廃した国土を復興し、世界最先端の工業化社会、情報化社会を作り上げてきた私たちは、その経験を多くの国々々に伝え、世界の繁栄に貢献していかなければならない)</p>
歴史総合	<ul style="list-style-type: none"> ○時系列に関わる視点 時期、年代、など ○諸事象の推移に関わる視点 展開、変化、継続 など ○諸事象の比較に関わる視点 類似、差異、特色など ○事象相互のつながりに関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互作用など 	<p>◎社会的事象の歴史的な見方・考え方</p> <p>社会的事象を、時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。</p> <p>考察 現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何を契機に、(地域や国家、日本・世界などの)相互の関係はどのように変化したのか ・どのように転換し、後にどのような変化をもたらしたのか <p>・どのような(地域や国家、日本・世界などの)共通点もしくは相違点がみられ、それは後の時代に何をもたらしたのか</p> <p>・どのような(地域や国家、日本・世界などの)相互関係があり、それは後に何をもたらしたのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史に見られる諸課題は、現代社会においてどのような課題と関連して現れているのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦を契機に、国際機構の成立や軍縮条約の締結に見られるように国際協調の機運が高まり、これまでは異なる国際秩序作りが目指された。この頃日本も協約外交の方針のもと、国際秩序の安定化のために欧米諸国との合意形成に参画した。 ・20世紀前半には、マスメディアの発達などを背景として、人々の政治や経済・文化活動は拡大した。20世紀後期になると、新たな技術革新などを背景として、情報技術が個人にも普及し始め、今ではそれを活用して人々の社会活動は地球規模に拡大することが可能になっている。 ・18～19世紀にかけて工業化や政治変動が起こり、国民国家のしくみが生まれ、その過程で人権思想が広がりはじめた。現代社会においては、人権思想の深まりがみられ、新たな人権問題が提起されている。 ・18世紀前後を通じて国際的な商業活動が活性化の中で、アジアの諸帝国が繁栄し、富を求めて進出した西欧諸国との交流が盛んに行われた。この頃日本も幕府による統制のもと、オランダ・中国・琉球などとの貿易や、朝鮮との交流を通じ情報や文化を吸収した。 ・20世紀後半の二度の石油危機以降、市場経済のグローバル化が一層進んだ。経済活動を中心とする世界の一体化の進行は、経済成長をもたらすエネルギー・資源の問題や様々な格差の問題などを人類共通の課題として提起することになった。 <p>・歴史上の選択・判断の積み重ねが時代を築き、今後の社会を創造する(具体例: 近代化をめぐる日本・アジア諸国の対応は異なり、その後の歴史の展開に大きな違いをもたらした)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○時系列に関わる視点 時期、年代 など ○諸事象の推移に関わる視点 展開、変化、継続、など ○諸事象の比較に関わる視点 類似、差異、多様性、複合性、一体化・多元性 など ○事象相互のつながりに関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互依存性など 	<p>◎社会的事象の歴史的な見方・考え方</p> <p>社会的事象を、時期や推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。</p> <p>考察 世界の歴史の大きな枠組みと展開を、多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何が、どのような背景で、どのように転換したのか ・どのような変化の中で、なぜそれは生じたのか <p>・どのような共通点もしくは相違点がみられ、それは社会の構築にどのような影響を及ぼしたのか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本や諸地域の動きは、世界のどのような変化と関係しているのか ・歴史に見られる諸課題は、現代を見る視点にどのようにつながるのか ・どのような意味や意義があり、後にどのような動きをもたらしたのか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウイグル・吐蕃・唐が減り、その権威に従っていた諸地域にも変動の波が広がった。律令体制を導入していた東アジアの諸国はあいついで滅びたり変質したりし、ウイグルと唐の影響下にあった内陸アジアの諸勢力は、仏教文化を受け継ぎつつ、独自の民族文字を用いる新国家を建設した。ポリネシキ政権は民族自決を唱えたが、やがて、独裁を強めるスターリンは非ロシア地域でのロシア化を進めた。ソ連では、少数派民族の抑圧の問題は解消されなかった。 ・15世紀末から17世紀前半、ヨーロッパの各国は独立した主権国家が互いに対立と妥協を繰り返しながら、一つの世界秩序を形成していったが、主権国家体制の態様と内実は国により異なっていた。日本で最初の国際定期洋行航路が神戸とボンベイに結ばれたのは、19世紀末の国際的な経済、金融、政治の動向が深く関係している。 ・かつて、平和な世の中は、国家間の利害対立が軍事衝突に至らないようにする仕組みを作ることによって実現されると考えられてきたが、冷戦緩和の頃からは、差別、貧困、飢饉などの構造的な問題にも着目しなげられ、実現は難しいと考えられるようになった。 ・宗教改革は、ローマ教皇や神聖ローマ皇帝の権威を大きく揺るがし、国家が宗教を管理して権力を強化しようとする動きをもたらしたと評価できる。 <p>・歴史上の課題について、時代背景を踏まえて多様な選択や判断を構想することは、現代を理解し今後の社会を展望する力となる(具体例: ミュンヘン会議やヴェトナム戦争の経験は、その後の外交の在り方に影響を与えた)</p>
世界史探究			<ul style="list-style-type: none"> ・なぜそのような判断をしたと考えられるか ・どのような選択が可能だったか ・歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために何を展望するか 	

「社会的な見方・考え方」を働かせたイメージの例

	考えられる視点例	社会、地理歴史、公民における思考力、判断力	視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例	考察、構想した結果、獲得する知識の例
高等学校地理歴史	<ul style="list-style-type: none"> ○時系列に関わる視点 時期、年代、時代 など ○諸事象の推移に関わる視点 展開、変化、継続 など ○諸事象の比較に関わる視点 類似、差異、多様性、地域性 など ○事象相互のつながりに関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互依存性 など 	<p>◎社会的事象の歴史的な見方・考え方</p> <p>社会的な事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。</p> <p>考察 日本の歴史の展開、伝統と文化の特色を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何が、どのような背景で、どのように転換したのか ・どのような変化の中で、なぜそれは生じたのか ・どのような共通点もしくは相違点がみられ、それは社会の構築にどのような影響を及ぼしたのか ・日本や世界の動きは、地域の変化とどのように関係しているのか ・歴史に見られる変化や推移は、現代を見る視点にどのようにつながるのか ・どのような意味や意義があり、後にどのような影響をもたらしたのか(どのような解釈や説明ができるか) <p>・なぜそのような判断をしたと考えられるか</p> <p>・どんな選択が可能だったか</p> <p>・歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために何を展望するか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中世の社会では、武士勢力や宗教勢力の拡大や庶民の台頭などが起こり、権力の多様化が新しい文化や地域的な差異を生みだすなどの変化をもたらした ・18～19世紀前半の社会構造は、幕府による政策的な対応にもかかわらず、経済・産業の成長の中で生じた矛盾によって次第に変化を生じていった ・日本の古代国家の形成過程における背景は、仏教文化の影響や国際関係の緊張への対応など、東アジア共通の要素が見受けられる ・19世紀、身近な地域の養蚕業の盛衰の背景には、近代化の過程の日本の貿易や国内の産業構造の変化が関係していた ・戦後の日本経済の推移は、冷戦の国際状況と密接に関係して展開しており、現代も世界情勢との関わりを踏まえて理解することが必要である ・生類憐みの令は人命に関わるものなど一部が後世に引き継がれたことから、戦国から平和な時代への価値観の変化を促したとも評価できる <p>・歴史上の課題について、時代背景を踏まえて多様な選択や判断を構想することは、現代を理解し今後の社会を展望する力となる(具体例:社会の変化を背景に拡大した米騒動には、国民意識の変化や情報化の進展などを踏まえた多様な対応の可能性が存在したが、当時の政権の選択による対応と結果は、後の政府の在り方に大きな影響を与えることとなった)</p>
公共	<ul style="list-style-type: none"> ○人間と社会の在り方を捉える視点 幸福、正義、公正、個人の尊厳、自由、平等、寛容、委任、希少性、機会費用、利便性と安全性、多様性と共通性 など ○公共的な空間に見られる課題の解決を構想する視点 幸福、正義、公正、協働関係の共時性と通時性、比較衡量、相互承認、適正な手続き、民主主義、自由・権利と責任・義務、平等、財源の確保と配分、平和、持続可能性 など 	<p>◎人間と社会の在り方についての見方・考え方</p> <p>社会的な事象等を、倫理、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、よりよい社会の構築や人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けたりすること。</p> <p>考察 人間としての在り方生き方、社会的な事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 複数の立場や意見を踏まえて、社会を形成する主体として構想する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会を成立させる背景にあるものは何か ・社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる考え方は何か <p>・よりよい集団、社会の在り方とはどのようなものか</p> <p>・公共的な場づくりや安全を目指した地域の活性化のために、私たちはどのように関わり、持続可能な社会づくりの主体となればよいか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえ、様々な立場や文化等を背景にして社会が成立している ・「その行為の結果である、個人や社会全体の幸福を重視する考え方」と「その行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」があり、両者ともに活用し、自分も他者もともに納得できる解を見出そうと考えていくことが重要である <p>・「自立した主体とは何か」を問い、自らを成長させるとともに、人間は社会的な存在であることを認識し、対話を通じてお互いを高め合うことの両者によってよりよい公共的な空間を作り出していくことが大切である</p> <p>・選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用するとともに、個人を起点として、自立、協働の観点から多様性を尊重して持続可能な地域づくりに向けた役割を担う主体となることが大切である</p>
高等学校公民	<ul style="list-style-type: none"> ○人間としての在り方生き方を捉える視点 善悪、生死、徳、愛、共感、幸福、義務、正義、個人の尊厳、公正、寛容、存在、真理、聖、美 など ○現代の倫理的諸課題の解決を構想する視点 尊重、畏敬、創造、保全、自由、権利、責任、自立、協働、勤労、多様性、相互承認、平和、国際協調、持続可能性 など 	<p>◎人間としての在り方生き方についての見方・考え方</p> <p>社会的な事象等を、倫理、哲学、宗教などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、人間としての在り方生き方についての自覚を深めることに向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けたりすること。</p> <p>考察 人間としての在り方生き方に関わる事象の意味や意義を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 複数の立場や意見を踏まえて構想(選択・判断)する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの人生をどう生きればよいか、生きることの意味は何か、人間とは何か ・他者どう生き、社会でどう生きていけばよいか、良識ある公民としていかに在るべきか、いかに生きるべきか ・人間は何を知ることができるのか、なぜ世界が存在するのか、人間はどのような位置付けで存在するのか ・哲学や宗教や芸術が何を問い、どのような答えを見出してきたか <p>・自然とどのように関わり合って生きればよいか。自然科学で知りうることと倫理学で求めることの違いはどこにあるか</p> <p>・グローバル化が進む中で、異文化と共生し多様な文化が共存する国際社会を築くために考えるべきことはどのようなことか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・価値あるよいものを求め、正しい行いを選ぶ賢さとそれを実行する意志の強さを身に付けた徳の高い人間を目指し生きる ・自由権の保障とともに不利な立場にある人々への配慮も必要であるという考え方を手がかりとして公正・公平な社会について考え続ける ・存在の不思議への驚きから知識への深い懐疑が生じること、正解が定めがたく問うこと自体に意味がある問いがあり、これを問い考え続けることが大切であることに気付く <p>・倫理で考えるのは主に「べき」であるため、自然科学で考える「ある」とは異なるが、観察した事実を根拠として練り上げられた理論を現実の出来事さらに観察し修正しながら、判断と理論を調整していくことが大切である</p> <p>・自民族中心主義やオリエンタリズムなどの思考による偏見を自覚し、異文化を尊重していくことが大切である</p>
政治経済	<ul style="list-style-type: none"> ○社会の在り方を捉える視点 個人の尊厳、効率、公正、自由、平等、委任、希少性、機会費用、選択、配分、分業、交換、利便性と安全性、多様性と共通性 など ○社会に見られる課題の解決を構想する視点 対立、協調、効率、公正、比較衡量、具体的な妥当性と法的安定性、相互承認、適正な手続き、民主主義、自由・権利と責任・義務、財源の確保と配分、平和、持続可能性 など 	<p>◎社会の在り方についての見方・考え方</p> <p>社会的な事象等を、政治、法、経済などに関わる多様な視点(概念や理論など)に着目して捉え、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けたりすること。</p> <p>考察 社会的な事象の意味や意義、相互の特色や関連を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 複数の立場や意見を踏まえて社会を形成する主体として構想し、合意形成する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・政治の意義と機能はどのようなものであるか ・経済活動の意義はどのようなものであるか <p>・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方とはどのようなものか</p> <p>・地域社会の発展と住民生活の向上のために、国と地方公共団体の関係の在り方や私たちの関わり方について、どのような選択・判断、合意形成を行うか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・政治とは広義には、個人あるいは集団の考え方や意見、利害の対立や衝突を調整したり解決したりすることにより、社会の秩序を維持し統合を図る機能を意味している ・経済活動は分業と交換に基づき人間生活の維持・向上のために行われるものであり、いずれの社会でも、「何をどれだけ」、「どのような方法で」、「誰のために」生産すべきか、生産された財やサービスをどのように社会の構成員に分配し、いかに消費するかという経済的選択の問題を解決しなければならないものである <p>・望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方を考察、追究する際には、現代政治における個人、政党及び圧力団体の行動、住民運動など現実社会の事象を取り上げ、客観的な資料を基に様々な角度から主体的に考察することが必要である</p> <p>・個人の尊厳、基本的人権の尊重を基盤に、理論と現実との相互関連に留意しながら持続可能な地域社会となる在り方を考察、追究することが大切である</p>



主な学習過程の例	課題把握	課題追究	課題解決	新たな課題		
	動機付け	方向付け	情報収集	考察・構想	まとめ	振り返り
	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習課題を設定する ・ 社会的な事象等を知る ・ 気付きや疑問を出し合う ・ 課題意識を醸成する ・ 学習課題を設定する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題解決の見通しを持つ ・ 予想や仮説を立てる ・ 調査方法、追究方法を吟味する ・ 学習計画を立てる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 予想や仮説の検証に向けて調べる ・ 学校外での観察や調査などを通して調べる ・ 様々な種類の資料を活用して調べる ・ 他の児童生徒と情報を交換する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 社会的な事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する ・ 多面的・多角的に考察する ・ 話し合う(討論等) ● 社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想する ・ 複数の立場や意見を踏まえて解決に向けて選択・判断する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 考察したことや構想したことをまとめる ・ 学習課題を振り返って結論をまとめる ・ 結論について他の児童生徒と話し合う ・ 学習課題についてレポートなどにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習を振り返って考察する ・ 自分の調べ方や学び方、結果を振り返る ・ 学習成果を学校外の他者に伝える ・ 新たな問い(課題)を見出したり追究したりする



■ 学習過程全体について留意すべき点 ■

- ・ 上記の学習過程及び評価の場面は例示であり、上例に限定されるものではないこと
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」を意図した、単元の構成の工夫等が望まれること
- ・ 社会的な事象等については、児童生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示することなどが重要であること。その際、特定の事柄を強調しすぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど偏った取扱いにより、児童生徒が多面的・多角的に考察し、事実を客観的に捉え、公正に判断することを妨げるようなことのないよう留意すること。また、客観的かつ公正な資料に基づいて指導するよう留意すること